

令和 8 年 9 月 3 日

全国自治体病院開設者協議会

公益社団法人 全国自治体病院協議会

令和 8 年度へき地医療貢献者表彰の決定について

標記の件について、下記のとおり令和 8 年度の受賞者が決定しましたのでお知らせします。

へき地医療貢献者表彰は、医師で 15 年以上にわたって山村・離島等医療に恵まれないへき地等の自治体立病院又は診療所に勤務し、その地域の医療確保に献身的に尽くしている功労者（但し、全国的見地からの表彰を既に受けたことのある者を除く）に対して、全国自治体病院開設者協議会会長及び公益社団法人全国自治体病院協議会会長が、その功績を称え、毎年 1 回実施しているものです。

昭和 56 年度の創設以来、今年度で 46 回目となります。

1. 受賞者

No.	都道府県	氏名	所属	へき地での勤務期間
1	北海道	夏目 寿彦	むかわ町国民健康保険穂別診療所 所長	19 年 1 か月
2	岩手県	笠月 瑞子	洋野町国民健康保険種市病院 副院長	26 年 2 か月
3	秋田県	野口 博生	北秋田市民病院 前副院長	16 年 2 か月
4	兵庫県	高内 善	公立八鹿病院 内科部長	21 年 2 か月
5	徳島県	宮田 淳也	三好市国民健康保険市立三野病院 院長	20 年 11 か月
6	愛媛県	橋本 治久	宇和島市立吉田病院 院長	37 年 2 か月
7	愛媛県	酒井 武則	市立八幡浜総合病院 健康管理部長兼内科科長	28 年 3 か月

2. 表彰の方法

表彰は、両協議会会長からの表彰状に記念品を添えて行うこととし、各都道府県自治体病院開設者協議会を通じ適宜の方法により伝達します。

本件に関するお問合せ

公益社団法人全国自治体病院協議会 経営調査部 TEL 03-3261-8568 E-mail keiei@jmha.or.jp

受賞者の概要

1	北海道	なつめ としひこ 夏目 寿彦 62 歳 むかわ町国民健康保険穂別診療所 所長	へき地での勤務期間 19 年 1 か月
2005 年 5 月に穂別町国民健康保険穂別診療所（現むかわ町）に着任され、へき地医療での総合診療を行い、各へき地医療機関に勤務された後、2013 年 4 月に、むかわ町国民健康保険穂別診療所の所長として着任され現在に至る。当診療所の位置するむかわ町穂別地区は、平取町、厚真町、夕張市及び占冠村に隣接する中山間地域にあり、過疎地域、豪雪地帯の指定を受け、2 次医療圏の苫小牧市へは、約 70km の距離がある。当地区内を運行する公共交通機関は、日に数便のバスに限られ、都市部への連絡は、かなり悪い地域である。住民の高齢化により、地域にとって無くてはならない当地区唯一の医療機関で、一次医療の役割は重要度を増している。 2018 年 9 月 6 日に胆振東部地震（震度 6 強）で大規模停電となり、当診療所も被災したが、夏目所長の指揮下により、招集できる限られた医療スタッフで怪我人の受入に備え、早急に開所準備を行い、同日通常どおり診療を開始し、患者の対応にあたった。 また、2020 年からのコロナ禍では、地域の特養でクラスターが発生し、保健所と連携してその対応にあたったほか、PCR 検査やワクチン接種等を行い、地域住民の健康を守った。			

2	岩手県	かさつきたまこ 笠月 瑞子 60 歳 洋野町国民健康保険種市病院 副院長	へき地での勤務期間 26 年 2 か月
2000 年度に旧種市町（2006 年 1 月の町村合併により現在は洋野町）の国民健康保険種市病院に内科医長として就任した。洋野町は岩手県沿岸の最北端に位置し人口約 15,000 人の小さな町であり、種市病院は町唯一の入院設備を持つ病院として、入院治療やプライマリ・ケアを受け持っている。 2013 年 4 月、副院長に就任。内科医としての専門性を持ちながら、地域包括ケアシステム構築実現のため、関係機関との連携を図り、地域医療の確保に努めている。 また、2017 年に認知症サポート医の資格を取得するとともに、翌年 2018 年には、新たに設置した地域医療連携室の室長を兼任し、高齢者や町民への安定した地域医療の提供に尽力している。			

3	秋田県	のぐち ひろお 野口 博生 65 歳 北秋田市民病院 前副院長	へき地での勤務期間 16 年 2 か月
1994 年 4 月に北秋中央病院へ赴任して以来、現在の北秋田市民病院に至るまで、30 年以上にわたり北秋田地域の小児医療を支えており、北秋田市民病院開院後は 15 年以上にわたり同院の小児医療を担ってきた。 また、北秋田市における乳幼児健診、学校医業務、予防接種、行政における各種審査・相談業務等にも長年従事し、疾病の早期発見、発育発達の確認、学校保健の推進、地域全体の健康保持に大きく貢献している。 さらに、北秋田市民病院副院長として病院運営にも携わり、診療体制の維持、院内各種委員会活動、医療情報システムや栄養管理等の分野にも関与し、地域医療を支える病院機能の安定的な運営に尽力してきた。加えて、医学生の地域医療実習においては、実際の外来診療を通じて、小児の診察方法、救急疾患、感染症対応など、小児診療の基本と地域医療の現場を丁寧に指導してきた。小児医療の幅広さと地域医療の意義を学生に伝え、将来の医師育成にも寄与し、地域医療全体の発展に貢献している。			

4	兵庫県	たかうち たくみ 高内 善 65 歳 公立八鹿病院 内科部長	へき地での勤務期間 21 年 2 か月
1993 年 6 月に公立八鹿病院内科へ赴任し、消化器内科担当として長きにわたり中心的な役割を担ってきた。早期の食道・胃・大腸癌に対する ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）治療を、但馬地域の病院で一番はじめに導入し、以降、地域の信頼を獲得しつつ数多くの患者に対して安定した治療を行い、成果を上げている。 また、多数の胆道・膵臓疾患（総胆管結石、閉塞性黄疸）に対して、積極的な内視鏡インターベンション治療（EST、各種ステント挿入など）を行っており、安定した治療成績を収めている。超音波内視鏡下穿刺吸引生検（EUS-FNA）を導入し、今まで病理組織診断が困難であった腸管外腫瘍の診断から治療に反映している。内視鏡センター長として低侵襲手術・処置に積極的に取り組み、患者の身体的負担の軽減につとめており、地域医療への功績は非常に多大である。			

5	徳島県	みやた じゅんや 宮田 淳也 54 歳 三好市国民健康保険市立三野病院 院長	へき地での勤務期間 20 年 11 か月
2005 年に三好市国民健康保険市立三野病院に赴任して以来長年にわたり、大半が山間部を占める過疎地域である徳島県西部の三好市において、医療の現場で献身的に尽力し、患者の健康と幸せに多大なる貢献をしてきた。 特にリウマチ・膠原病外来では、高度・特殊・先駆的医療等を担い、医療従事者として技術の向上と地域の医療水準の向上に努めてきた。その卓越した医療技術と温かい人柄により、多くの命が救われ、地域医療の発展に寄与している。			

6	愛媛県	はしもと はるひさ 橋本 治久 72 歳 宇和島市立吉田病院 院長	へき地での勤務期間 37 年 2 か月
1986 年 4 月から吉田町（現在の宇和島市）の町立吉田病院（現在は宇和島市立吉田病院）で勤務し、2004 年までの 18 年間この病院に従事した。一時、伊予病院で 3 年勤務したが、その後再び合併後の市立吉田病院に戻り、院長として病院運営に携わっている。通算で当病院での勤務期間は 37 年に及ぶ。 こうした背景の中、地域が抱える医師不足や看護師不足の課題に対応するため市立宇和島病院と医師・看護師の相互連携を行い、献身的に地域医療に取り組むという医師本来の使命を常に心に留め、患者との関わりを重視して病院運営に尽力している。 2005 年の自治体合併を受け、地域の声に耳を傾けつつ、患者様の立場に立った病院運営をどのように持続していくかが課題となる中、合併後、医師不足により休診となっていた眼科・耳鼻科について診療を再開し、地域医療構想に則した病床機能再編に基づく施設整備を行い、地域医療を支える体制を強化した。			

7	愛媛県	さかい たけのり 酒井 武則 63 歳 市立八幡浜総合病院 健康管理部長兼内科科長	へき地での勤務期間 28 年 3 か月
八幡浜市および周辺地域の医療を支える市立八幡浜総合病院において、1998 年 3 月から長年にわたり地域医療の充実に尽力している。市立八幡浜総合病院がへき地医療拠点病院や地域唯一の二次救急指定病院としての重責を担い、自己完結型の高度急性期医療を目指す中、酒井医師は健康管理部長兼内科科長として、各部署と緊密に連携しながら日々の診療に邁進している。院内での診療のみならず、市内唯一の有人離島である大島へ週に一度赴き、大島診療所にて島民のために診療を続けている。 また、日本糖尿病学会学術評議員・指導医・専門医として、他の医師や看護師、コメディカルの指導にも熱心に取り組み、高度で専門的な医療を行うため、スタッフの育成にも力を注いでいる。 さらには、学会や講演会の講師、愛媛大学医学部附属病院の地域医療支援センターの運営委員も務めるなど、地域医療関係者と協力体制を構築し、若手医師のキャリア形成や地域医療確保のため、多くの場で活躍している。			